

## A-23 鳥海山 七高山(2229m)

【山行日】2022年5月6日

【CL】2935 【参加者】3508 3580

【コース】祓川駐車場 6:40…10:40 七高山 11:40 - - 12:40 祓川駐車場

ここ数年、雪不足やコロナ禍、地震等で山スキーツアーを計画するのは厳しい状況が続いた。やっと待ちに待った東北山スキー遠征が実現した。

名古屋を5月3日に出発して天候のよさそうな4日に鳥海山を登ることにした。しかし登山口まで行ってみたが、晴れているものの約20m/sの強風で登高を断念せざるを得なかった。東北の日本海側は日本海からの強い北西の風が吹き付けるため、せっかく晴れていても山スキーで登山できないコンディションの日が多いようだ。結局、弘前まで移動して弘前城観光、嶽温泉に宿泊。5日は岩木山で山スキーしてから再び鳥海山に挑戦すべく戻ってきた。夜21:20に祓川駐車場に到着。すでに十数台の車が止まっていて、皆さん車中泊している様子。私たちもシュラフを広げて車中泊。



6日朝5時起床。風もなく素晴らしいお天気だ。私の晴れ女パワー全開だ！朝食を取って6:40出発。すでに多数の登山者やスキーヤー、ボーダーが大雪原の中を登って行く。所々にクラックができてるのが見える。リーダーが安全で急登でないルートどりをして



くださる。黙々とスキーを引きずりながら登っていく。頂上直下はスキー登高にはキツイ急登になる。板の裏に貼ってあるバックスキンのシールのフリクションがザラメ状の雪では効きにくく、ズルズルと後ろにずり下がってしまう。そのためジグザグを切りながら徐々に高度を上げていく。10:40鳥海山七高山に到着。ピークの向こう側は火口で、バサッと荒々しく切れ落ちている。火口のお鉢の向こうに鳥海山頂上新山が見える。そこまでは、とてもスキー靴で歩く気がしない。

頂上からの景色は最高だ！薄っすら霞んで白い雪の月山が見える。日本海が眼下に広がっている。鳥海山の雪と岩の美しいコントラストの広い裾野が一望できる。しばらく素晴らしい景色と登頂の感激に浸ってから、スキー裏のシールを剥がし、11:40にお楽しみのスキー滑走だ。広い大斜面のどこかを滑ってもいい。滑りやすいザラメ雪を思う存分シュプールを描きながら滑った。

12:40無事下山。鳥海山の山スキーは最高に素敵だった。リーダーとメンバーに感謝です。(3580)

